

20100531

2010年5月31日　日本テレビ 定例記者会見

《 全文 》

<発表>

細川知正社長：5月30日（日）から6月6日（日）まで、「eco ウィーク2010」のキャンペーンを行っております。

また7月4日（日）の夕方5時59分から6時までの1分間で、「全国一斉地デジ化テスト」という地デジ関連のPRミニ番組を放送いたします。アナログが停波し地上デジタルに切り替わった際、アナログ受信機ではテレビ番組が観られなくなります、という告知を、民放127社とNHKを含めて全国で放送します。幹事社として日本テレビが番組制作を担当します。

映画「スカイ・クロラ」の動画配信を7月23日から行います。興行的にも多くの方にご覧頂いた作品です。日本テレビの自社幹事映画をインターネット配信するのは今回が初めてで、今後も動画配信等には積極的に取り組んでまいります。

舛方勝宏専務：視聴率は先々週、ゴールデンタイム、プライムタイムの2冠をとりましたが、先週はゴールデンタイム、プライムタイムは3位、全日とノンプライムタイムが2位でした。

ドラマは水曜日の『Mother』、土曜日の『怪物くん』がともに私どもが目指している視聴率13.5%近辺を維持しています。特に『Mother』のクオリティは私どもも大変期待していますし、女性視聴者の全層にわたって非常に高い支持を頂いています。今期の各局ドラマの中でクオリティが一番高いと報道関係者から評価を頂いています。サスペンスの要素も入っていますので、ちょっと怖すぎるかな、と思うところもありますが、女性層はいろいろなところで話題にして下さって、それが耳に届いてくるほど評判が良いです。

また『怪物くん』は以前から申し上げているように、子ども層や10代の若者層がお父さん、お母さんと一緒に家族そろって見て下さっていることがデータにはっきり出ています。ドラマに関して今期は大変満足しています。

帯番組では『ズームイン!!SUPER』の世帯視聴率がやや下がっていますが、スポンサーニーズの高い層に、より見て頂けることを目指していますので、

その意味では体質改善が行われていると言えます。

サッカーのワールドカップ南アフリカ大会は、日本代表のデンマーク戦や準々決勝、準決勝を含め、5試合を放送します。

7月期のドラマでは、3年前に放送した『ホタルノヒカリ』の続編として『ホタルノヒカリ2』を水曜日22時に放送いたします。綾瀬はるかさんの主演で、新たに向井理さんが加わります。NHK「ゲゲゲの女房」で水木しげるさんの役を演じられ、TBS「新参者」にも出演する等、大いに期待できる向井さんを迎えて、主人公のホタルが結婚を意識し始める部分が見所です。綾瀬さんは抜群に支持されている女優さんですから、7月期のドラマとして期待しています。2007年7月に放送した『ホタルノヒカリ』の平均視聴率は13.7%でした。これを越えて欲しいと思っています。

また、土曜日21時の『怪物くん』のあとには『美丘』(みおか)を放送します。これはヒロインの名前で、不治の病を抱えた主人公と彼女を愛した青年の切なくも激しいラブストーリーです。若者層、高校生や大学生に支持されるドラマになってくれればと考えています。

市川海老蔵さんと小林麻央さんの結婚披露宴は7月29日(木)に行われますが、その模様は翌30日(金)に日本テレビで放送いたします。現在、詳細について市川団十郎さんをはじめ海老蔵さん側と詰めながら、梨園にふさわしい披露宴として、また同時に麻央さんの人柄等も前面に打ち出した内容にしたいと考えています。

1. 最近の視聴率動向と編成戦略

記者：4月編成で平日19時台をだいぶ改革しましたが、その手ごたえはいかがですか。

舛方専務：平日の19時台は、水曜日の『密室謎解きバラエティー 脱出ゲーム DERO!』が視聴率10%前後で、波はありますが、子どもとお母さん方の視聴率が非常に高くなっています。これはいずれ上がると分析しています。また出演されるゲストによっても視聴率が大きく上がる可能性があります。一方、金曜日がやや苦戦していますので、少して入れをして行こうと考えています。月曜日の『不可思議探偵団』は10%を超えるときもありますので、平日19時台は全体に可能性が出てきたと思っています。

記者：市川海老蔵さんと小林麻央さんの披露宴を生放送しないのはなぜですか。

舛方専務：披露宴やお二人の結婚にまつわる内容をしっかりとお伝えするためです。日本テレビは披露宴中継の実績も多くありますが、披露宴以外の要素も含めゆっくり観て頂きたいと考えています。例えば、梨園のしきたりや成田山にお参りに行かれること等、一般では知りえないものもうまく番組で紹介しながらじっくりご覧頂きたい。麻央さんは『NEWS ZERO』のキャスターも務めて日本テレビに親近感を持って頂き、披露宴を番組にするなら日本テレビという気持ちが強かったと聞いています。市川海老蔵さんも3月のドラマ「霧の旗」の主役で大変すばらしい演技をして頂きました。そうしたことから日本テレビで披露宴を放送することになったと考えています。梨園の結婚披露宴の放送はあまりありませんし、1,000人を超えるそうそうたる方が列席されることになっています。こうした部分も含め関心を持って頂ければ幸いです。

記者：地上波で野球中継がある時の視聴率で、「その他視聴」が増えているそうですが、その要因は何でしょうか。

細川社長：想像になりますが、恐らくかなり多くの方が野球のナイター中継をBSで観ていらっしゃるのではないかと感じています。野球そのものの人気は全然落ちていない。東京ドームなど球場は大盛況です。ところが地上波の野球中継の視聴率にあまり反映されていない。従って、どこかへ逃げているわけです。「その他視聴」はBSの普及が大きいと思います。BS各社の経営状況も良くなっていますし、それに伴ってコンテンツも充実していますので、こうした影響が出てきていると思っています。その中心としてBSの野球中継が大きいのではと考えています。

舛方専務：巨人戦中継の視聴率で、「その他視聴」が地上波を上回るときもありますから、半分以上はBS視聴の影響があるのではないかと思っています。逆に言うと、プロ野球中継はBSで観るという、ある意味のブランドが定着したように感じています。今はBSの野球中継に各社が対応していますので、野球の根強いファンは最初からBSを観る形が昨年より出てきたという感じがします。

2. 営業収入と放送外収入

記者：2009 年度決算が固まりました。感想と放送外収入の状況等をお願いします。

細川社長：年度決算は「大減収増益」でした。増益の部分は良かったと言えます。増益はコストコントロールで行っているわけです。ずっと好調に業績が上がっていると、どうしてもいろいろなコストが上がっていきます。それがこの 2 年の厳しい環境の中でコストを吸収できる体質になった。これは良いことだと考えています。非常に辛い年ではあったが、結果として良いものも得たというのが感想です。

放送外収入については、売上、利益ともに過去最高と見ていまして、利益がかなり大幅に増えました。要因の一つとして、映画がほぼ例外なく成功したことがあります。映画事業は売上有ある点を越えると、コストは変わらずに利益が増えていくため、大きく貢献しました。また昨年は「ルーヴル美術館展 17 世紀ヨーロッパ絵画」が展覧会としては異例の売上と収益となり、こちらも大きく貢献しました。前年度の放送外収入は順調に「增收増益」でした。

記者：一番好調だった映画は何ですか。

細川社長：映画の収入では『20 世紀少年』が一番大きいでしょう。『サマーオース』『ごくせん THE MOVIE』も非常に好調でした。

今後の見通しについてですが、営業の放送収入の中で広告主にとって固定費となるタイムセールスが回復せず、より柔軟に広告主が使えるスポットセールスだけが上向いています。企業の先行き不安によるネガティブな影響と言えます。ギリシャの問題のような経済的な問題、支障が起こること自体も、私どもにとってはネガティブだと言えます。

今期の営業状況については、既に 4 月の実績が出て、5 月もほぼ方向性が見えています。単体の放送収入では、タイムセールスは残念ながらまだ下げ止まっています。4 月の前年同月比で約 93% です。スポットセールスが業界全体で昨年の第 4 四半期から下げ止まつたので、タイムセールスも下げ止まることを期待しましたが、止まっていません。一方スポットセールスは、4 月、5 月ともに大幅に前年同月を上回り、2 桁伸びています。6 月はサッカー・ワールドカップの影響もあり、状況がまだ見えませんが、いずれにしてもスポットセールスは今期前半で恐らくプラスであろうと思います。ただしスポットセールスの 3 ヶ月先を見通すのは非常に困難です。下半期のスポットセールスが対前

年比でどうなるか、不透明だと思っています。

もう一つの収入の柱である放送外収入については、少なくとも今年の状況を維持したい。昨年が非常に好調でしたので、同じレベルを維持するのが目標です。

記者：支出や制作費は、今年も昨年並みに抑えていくのですか

細川社長：昨年並みの割合で削減することは難しいのですが、現状を維持するのが基本的な姿勢です。この非常につらい 2 年間で唯一得たものを失っては何にもならないので、注意していきたいと思っています。

3. 地デジの進捗状況

記者：地デジの進捗状況はいかがでしょうか。

細川社長：地デジの進捗状況は、受信機の普及など全体では極めて順調に進んでいます。ただし、特に関東エリアでいくつか問題が生じています。古い集合住宅の共聴設備等のインフラがまだ十分に整備されていない。また関東エリアではほとんどの世帯が VHF アンテナでテレビをご覧になっているため UHF アンテナへの交換が必要です。地デジ対応テレビに換えて、従来の VHF アンテナのままでアナログを観ている方が多くいらっしゃいます。CATV 等は別として、アンテナ受信に関する普及がやや遅れています。ここを重点的に対応しなければいけない。やれることは、あらゆることを行っていかなければいけないと思います。

7 月 4 日に全国で 1 分間の番組「全国一斉地デジ化テスト」を放送します。また、今後もいろいろな取り組みを民放連中心に行っていくことになると思います。特に関東エリアの問題は民放連で対応するのが難しいので、民放連の支部会のような形態で対応していくことになると思います。

記者：VHF アンテナから UHF アンテナに変更しなければならないのに、対応していない世帯数を把握していますか。

細川社長：マンションやアパート等、集合住宅のデジタル化率が全国で 8 割弱に届く中で南関東はまだ 5 割程度です。この数字から類推して南関東の UHF アンテナへの変更は遅れているものと見てています。テレビ等の受信機の世帯普及率は 8 割を超えていますが、地上デジタル放送が視聴できる世帯は実はまだ 5

割ぐらいとなります。これは急速に解消しなければいけないと思っています。これは関東エリアだけの問題ではありませんが、関東エリアで一番深刻な問題ということです。

記者：アンテナを換えるという意識の問題ですか？

細川社長：そうです。特に困るのは駆け込みでの工事対応で、来年の7月以降にアナログ放送を観ることができなくなったら換えざるを得なくなりますが、それからでは間に合わない。ですから、あらゆるキャンペーンを行って「早く换えてください」とPRをしなければいけないと思います。

4. その他

記者：東京ヴェルディがJリーグの管理下に入りましたが、感想をお願いします。

細川社長：当初の経営計画等については私どもも内容を伺っていました。その後、計画が順調に進まなかつたようですが、ヴェルディがあつてこそJリーグが発足した面もあると思いますから、いい形で収まって欲しいと思っています。Jリーグがきちんと対応していると理解しています。

記者：BPO放送倫理検証委員会が5月で丸3年を迎えたが、これまでの活動の評価はいかがでしょうか。

細川社長：放送局側が作った組織を私どもが評価するのはいかがなものかという気がいたしますが、かなり良い活動をされていると感じています。BPOや委員会によって我々の求めている放送の独立性が維持されていますし、独立性を維持するのに大いに役に立つ機関だと考えています。もちろん、個々の案件で私どもと意見が違うことはありますが、独立機関ですからそれはいいと思います。

記者：BPOによって日本テレビのバラエティーや情報番組の制作現場が変化した部分はありますか？

細川社長：『真相報道 バンキシャ！』の問題に関しては、BPOの提言によって制作体制や制作陣の意識が変わりました。

舛方専務：BPO によって制作現場が萎縮していることはありません。3月11日に在京各局のバラエティー制作の代表者が集まって議論し、BPO からも意見を出して頂く等、すごく良い内容でした。BPO は番組を取り締まる存在ではなく、番組を良くするための応援団でもあると、制作者やクリエイターが理解したことは大変良かったと思います。法令順守も現場で確認していますし、勉強会等も年代を問わずやっていますので、議論がプラスに働いたと思っています。バラエティーの会合等を定期的に BPO、あるいは我々のほうから呼びかけて開催することは大変プラスになると思います。

(了)